

ひまわり

令和4年9月号

↓カラー版はこちらから



『交流の日』を通して見えるもの

校長 門脇 伸也

野分(のわき)候。この「野分」は、台風の厄日として知られる二百十日(9月1日)や二百二十日(9月10日)の時期を示します。今年は、「超」のつく大型の凄まじい台風が発生し、全国各地から被害情報が伝えられました。本校も、児童・生徒がいる中での防災計画を見直す必要を感じました。

さて、9月17日(土)は、天気にも恵まれ『交流の日』の行事を行いました。この行事は、新宿十二社熊野神社のお祭りの日に合わせて、西新宿四丁目町会の子ども神輿と山車が、本校の校庭を中継地点としてやって来ます。この際に地域の子どもたちと本校の児童・生徒が交流を図る一大行事です。中継地点ですから、時間にすると30分間あるかないかの短い時間の交流ですが、本校の児童・生徒・教職員と地域の方々とが交流できるととても大切な学校行事でもあります。コロナ禍の令和2年と3年は中止となりましたが、今年度は子どもの山車のみで再開され、当日の校庭には400名を超える方が来ていたそうです。町会長さんは「驚いたことに182名の子どもたちが集ってくれました」「この地域にこんなにもたくさんの子どもがいたんですね」とお話されていました。新宿養護学校の児童・生徒の中には、ご近所に住んでいる顔見知りの親子から声を掛けられ、会話を楽しんでいる子どももいました。本校の児童・生徒は、山車を前にして記念写真を撮り、祭りの半被を着た町会の方から一人一人お菓子の入った袋をいただきました。「校長先生、お菓子をもらっちゃった」と本校の児童は満面笑顔でした。

この活動は、午前11時過ぎから30分間ほどでしたが、その後、校内の体育館と各教室を会場にした縁日体験活動を開催しました。もちろん授業の一貫ですから、校内縁日のお店もお客も本校の児童・生徒です。工夫を凝らしたゲームやガラガラと回す福引などがあり、町会からは自分の願いを書いた紙と交換にプレゼントがもらえるコーナーが設けられていました。この縁日体験に町会からは4名、工学院大学の学生さんが6名、それぞれが児童・生徒と一緒に活動し、会話を通じて縁日を一緒に楽しみ、この日ならではの交流を行うことができました。

ところで、4月以降、地域の協議会が復活してきました。4月21日(木)の第1回青少年育成委員会、9月5日(月)の第1回西新宿小学校避難所運営委員会が角筈地域センターにて開催され、久しぶりに地域の皆様とお会いする機会をもてました。人の集まる中で感染症予防対策を図りつつ、行事や協議会をどのように運営していくかが話題となっていました。本校の感染症予防対策状況についてもお伝えし、新宿養護学校をご理解していただける機会となったことは言うまでもありません。

さらに、地域の皆様の防災対策への関心は高く、古くから住んでいる方と高層住宅の新住民とのコミュニケーションづくりも話題となりました。改めて感じたことは、実施可能な防災プランを練る過程を経てこそ自助・共助の土台づくりへと繋がるといことです。本校も地域の皆様と顔の見えるお付き合いを通して、本校なりの防災プランを作成していかなければなりません。障害のある方の第二避難所が開設されるといった想定での訓練は、実施されることがありません。児童・生徒の下校前と下校後での開設の想定は全く異なってきます。関係機関の皆様とも実施可能な防災プランを協議していきたいと存じます。どうか皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。



「着用した半被」



「新宿養護神輿」



「十二社子供山車」



「子供山車を本校児童・生徒が叩きました」

「小学部 2組クラス遠足」

小学部 岩元 雅和

小学部2組で、東京ドームシティにある「宇宙ミュージアム TeNQ」に行きました。迫力のあるプロジェクトマップで太陽系の歴史を学んだり、直径11mの穴状の大きなシアターで火星や土星などの惑星を疑似旅行したりしました。児童はみんな興味津々で、楽しそうに笑顔を浮かべながら見ている児童もいれば、静かに集中して見ている児童もいました。

その後の展示も3グループに分かれて、それぞれで楽しみました。日頃、あまり見たり聞いたりすることのない「宇宙」を知ることができ、子どもたちの知る世界がまた一つ開かれた、貴重な体験になりました。



「小学部 3組クラス遠足」

小学部 荒井 大樹

キッザニア東京に行きました。各グループに分かれ、様々な仕事の体験をしました。教習所での免許の取得や鉛筆づくり、宅配便の仕事を経験しました。

教習所では、実際の車のように、画面に表示された指示通りに運転をすると、運転の試験に合格することができ、免許証を渡されると、ガッツポーズをしている児童もいました。鉛筆づくりでは、木の板に鉛筆の芯を詰めたり、試し書きをしたりして、お土産で鉛筆を渡されると、大喜びしていました。宅配便では、ユニフォームを着て、素敵な笑顔で荷物を持ちながら目的地まで運びました。

真剣に仕事の体験に取り組んだり、昼食の手作りお弁当に大喜びしたり、笑顔いっぱい、楽しく学ぶことができた遠足でした。



「交流の日」

小学部 田中 幸

今年度も各クラスで準備したお店を回る「新宿養護祭り(縁日)」を実施しました。「やさいつりゲーム」や的当て、「巨大ガラポン」などの魅力的な出し物に皆心を躍らせながら児童・生徒間の交流を図ることができました。また、3年ぶりに校庭に来た「子供山車」に興味深そうに見たり、太鼓を叩いて嬉しそうに笑顔を浮かべたりする子どもたちの姿が見られました。

1日を通して十二社商店親睦会の方々4名と工学院大学の学生ボランティア6名にご参加いただきました。地域の方々に本校のことや児童・生徒のことを知ってもらうことができ、地域の方々と交流を深める良い機会となりました。この日をきっかけとして、今後とも地域の中の新宿養護学校として地域との関わりを深くもっていきます。



「児童・生徒会の取り組み」

中学部 富田 佳貴

児童・生徒会は、小学部5名、中学部8名で構成されており、5月の児童・生徒会役員選挙によって選ばれました。主に学校生活の充実や改善向上を図る活動や、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動等の社会参加等に関する活動を行っています。1学期は緑の募金活動、あいさつ運動、感染症対策啓発ポスター作りを行いました。児童・生徒会役員が中心となり、昼休みや登下校時の時間を使って定期的に活動を行っています。

2学期も、運動会の司会進行や給食もりもり運動、ふくのおプロジェクトといった様々な活動を予定しています。



研究部より

低学年こすもす・すみれグループ

本グループは、小学部1年生から3年生のグループです。今年度の研究主題「特別支援学校におけるICTを活用した言語能力の育成」を基に、それぞれの課題に合わせて、各教科、日常生活でICTを活用した学習に取り組んでいます。

今回は、視線入力装置を使った学習をご紹介します。具体物教材を使った学習と同様に、それぞれの力に合わせてアプリケーションの課題の種類や難易度を変更することができ、画像や数値で学びの記録を残すことができます。児童は、視線を使って画面上に絵を描いたり、風船を割ったりする学習に取り組んでいます。これからも「できた」と実感できる体験をたくさん積み重ねていけるよう支援していきます。

今回の研究には、7月に本校でご講演していただいた島根大学の伊藤史人先生による重度障害児・者支援アプリシリーズ「EyeMoT (アイモット)」を活用しています。一般にも無料で公開されています。ご興味のある方は、伊藤先生のHP「ボランの広場」をぜひご覧ください。

